



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2017年4月28日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、5月12日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

サノフィ、2017年度第1四半期の堅調な業績を発表

	2017年度 第1四半期	前年同期比	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CERおよびCS ⁽¹⁾)
IFRS 純売上高(為替調整前)	€8,648m	+11.1%	+8.6%	+3.5%
IFRS 純利益(為替調整前)	€5,701m	+424.5%	-	-
IFRS 1株当たり純利益 (為替調整前)	€4.52	+438.1%	-	-
事業純利益 ⁽²⁾	€1,795m	+4.2%	+1.0%	-
1株当たり事業純利益 ⁽²⁾	€1.42	+6.0%	+3.0%	-

2017年度第1四半期の業績には、ベーリンガーインゲルハイム社のコンシューマー・ヘルスケア(CHC)事業を買収し、動物用医薬品事業を売却したこと(2017年1月1日に完了⁽³⁾)が反映されています。IFRS第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、動物用医薬品事業の2016年度業績および2017年の売却益は、別途報告されます。2017年度第1四半期の損益計算書には、2016年12月末にメルク社とのサノフィパスツール MSD ジョイントベンチャー(SPMMSD JV)が終了した後、サノフィのワクチンポर्टフォリオに関連して欧州業務の整理統合を行ったことも反映されています。

2017年度第1四半期の売上増は、スペシャルティケア、ワクチン、および新興市場が後押し

- ベーリンガーインゲルハイム(BI)社のCHC事業の買収、およびサノフィの欧州ワクチン事業が全面的に連結対象になったことを反映し、純売上高は、調整前11.1%増(CERベースで8.6%増⁽⁴⁾)の86億4,800万ユーロ。純売上高は、CERおよびCSベースで3.5%増
- サノフィジェンザイム(スペシャルティケア)グローバルビジネスユニット(GBU)の売上高が多発性硬化症製品群に牽引され、CERベースで15.5%増
- 糖尿病GBUおよび循環器GBUの売上高は、CERベースで7.7%減、グローバル糖尿病製品群の売上高は、6.0%減
- サノフィパスツールGBUは、小児用混合ワクチンの好業績を受けて、CERおよびCSベースで13.2%増
- CHC GBUの売上高は、欧州の業績に牽引され、CERおよびCSベースで4.7%増
- 新興市場⁽⁵⁾の売上高は、CERおよびCSベースで8.5%増

良好な業績を達成し、2017年度の見通しを確認

- 事業営業利益は、CERおよびCSベースで前年同期比7.6%増の24億4,200万ユーロ
- 1株当たり事業純利益⁽²⁾は、CERベースで3.0%増(調整前6.0%増)の1.42ユーロ
- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2017年度通年の1株当たり事業純利益⁽²⁾を3%減⁽⁶⁾(CERベース)と予測
- 57億100万ユーロ(424%増)のIFRS純利益には、メリアルの売却による44億2,700万ユーロの売却益が含まれる

サノフィの2020年に向けた戦略的ロードマップが進展

- ベーリンガーインゲルハイム社のCHC事業の統合が順調に進行し、主要カテゴリーおよび地域におけるサノフィの優位性を獲得
- SPMMSD JVの終了後、欧州のワクチン事業はサノフィが完全に管理
- 中等症から重症のアトピー性皮膚炎(AD)の画期的治療薬であるDupixent[®]が米国で成人患者を対象に発売
- 2型糖尿病に対するLantus[®](ランタス)およびリキシセナチドの初の1日1回投与固定比率配合剤、Soliqua[™]100/33が米国で発売
- 関節リウマチ治療薬Kevzara[™]の生物学的製剤承認申請(BLA)について、PDUFAに基づく審査期限が2017年5月22日に設定される
- 米国での春期アレルギーシーズンを前に、Xyzal[®] Allergy 24HがOTC薬としてFDA承認を取得し、発売間近

サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディクルのコメント:

「今年は新興市場の良好な業績に加え、スペシャルティケアおよびワクチンに牽引され、年初に堅調な成長を達成しました。第1四半期の主な結果には、ベーリンガーインゲルハイム社のCHC事業の統合および欧州のワクチン事業の統合が好影響を及ぼしています。同時に、組織の簡素化も引き続きサノフィの業績に貢献しています。米国で中等症から重症のアトピー性皮膚炎を対象にDupixent[®]を発売して、戦略的ロードマップにおける革新の節目を達成し、新しい免疫製品群の基礎を築きました。当社は、この過酷な疾患に苦しむ患者さんに、この非常に革新的な医薬品をお届けしていきます」

(1) CS(constant structure):グループ構成の変動要因を排除:BI CHC 事業、SPMSD 終了、その他について調整を実施(2) 当カンパニーの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(定義は付録 8 を参照)。2017 年度第 1 四半期の連結損益計算書については付録 3 に、IFRS 純利益(為替調整前)から事業純利益への調整については付録 4 に記載しています。(3) メキシコにおけるリアル売却のクロージングは 2017 年中を予定しています。(4) 特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(付録 8 を参照)(5) 8 ページを参照(6) 2016 年度の 1 株当たり事業純利益は 5.68 ユーロ

2017 年度第 1 四半期のサノフィ売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して⁽⁷⁾算出しています。

2017 年度第 1 四半期のカンパニー売上高は、調整前ベースで 11.1%増の 86 億 4,800 万ユーロでした。為替レートの変動により、主に米ドル、ブラジル・リアル、および日本円の有利な変動によってエジプト・ポンド、トルコ・リラ、英国ポンドの悪影響が相殺されたことを反映し、2.5 ポイントの好影響を受けました。カンパニー売上高は、BI CHC 事業の買収とサノフィの欧州ワクチン事業が全面的に連結対象になったことの恩恵を受け、CER ベースで 8.6%増となりました。カンパニー売上高は、CER および CS ベースで 3.5%増でした。

グローバルビジネスユニット

以下の表は、グローバルビジネスユニット(GBU)別の売上高をまとめたものであり、2016 年 1 月 1 日付のサノフィの組織体制を示しています。この体制により、専門性を高め、意思決定プロセスが簡略化され、成長の原動力に明確に注力できるようになります。新興市場におけるスペシャルティケア、糖尿病および循環器の売上高は、ジェネラルメディシンおよび新興市場 GBU に計上されます。

GBU 別純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2017 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CER/CS*)
サノフィジェンザイム(スペシャルティケア) ^(a)	1,379	+15.5%	+15.5%
糖尿病および循環器 ^(a)	1,419	-7.7%	-7.7%
ジェネラルメディシンおよび新興市場 ^(b)	3,725	+2.2%	+2.1%
コンシューマー・ヘルスケア (CHC)	1,341	+42.7%	+4.7%
医薬品合計	7,864	+7.4%	+2.6%
サノフィパスツール(ワクチン)	784	+22.2%	+13.2%
カンパニー売上高合計	8,648	+8.6%	+3.5%

(a) 新興市場の売上高は含まず(定義は 8 ページを参照)(b) 糖尿病および循環器とスペシャルティケアの新興市場の売上高を含む

*CS:グループ構成の変動要因を排除

グローバル製品群

以下の表は、2017 年度第 1 四半期のグローバル製品群別売上高をまとめたものであり、比較しやすいように新興市場における売上高を含めています。付録 1 に、GBU 別および製品群別の調整値をまとめました。

製品群別純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2017 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CER/CS*)	先進国市場	前年同期比 (CER/CS*)	新興市場	前年同期比 (CER/CS*)
スペシャルティケア	1,620	+15.6%	+15.6%	1,379	+15.5%	241	+16.3%
糖尿病および循環器	1,795	-4.0%	-4.0%	1,419	-7.7%	376	+12.3%
エスタブリッシュ処方製品	2,640	+0.6%	+0.3%	1,634	-4.1%	1,006	+8.3%
コンシューマー・ヘルスケア (CHC)	1,341	+42.7%	+4.7%	937	+6.1%	404	+1.3%
ジェネリック医薬品	468	-2.0%	-1.7%	268	-5.0%	200	+3.4%
ワクチン	784	+22.2%	+13.2%	468	+14.6%	316	+11.1%
純売上高合計	8,648	+8.6%	+3.5%	6,105	+1.6%	2,543	+8.5%

*CS(constant structure):グループ構成の変動要因を排除

医薬品

2017 年度第 1 四半期における医薬品事業の売上高は、7.4%増の 78 億 6,400 万ユーロとなりました。医薬品事業の売上高は、多発性硬化症、CHC、希少疾患、オンコロジー、および循環器製品群に牽引され、CS ベースで 2.6%増でした。

(7) 財務指標の定義は付録 8 を参照

希少疾患製品群

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Myozyme [®] (マイオザイム)/Lumizyme [®]	190	+12.7%
Cerezyme [®] (セレザイム)	176	-4.9%
Fabrazyme [®] (ファブラザイム)	177	+15.4%
Aldurazyme [®] (アウドラザイム)	52	+8.3%
Cerdelga [®] (サデルガ)	31	+30.4%
その他	86	+3.8%
希少疾患合計	712	+7.6%

第1四半期における希少疾患製品群の売上高は、世界的に新規治療患者が増加したことに牽引され、7.6%増の7億1,200万ユーロとなりました。希少疾患製品群の売上高は、米国で12.2%増、新興市場で11.1%増と2桁成長を記録しました。

第1四半期における**ゴーシェ病製品群**(Cerezyme[®](セレザイム)および Cerdelga[®](サデルガ))の売上高は、主に中南米での発注パターンにより、新興市場での Cerezyme[®](セレザイム)の売上高(10.7%減の5,000万ユーロ)が減少し、1.0%減の2億700万ユーロとなりました。Cerdelga[®](サデルガ)の売上高は、30.4%増の3,100万ユーロであり、そのうち2,500万ユーロ(26.3%増)が米国で計上されました。

第1四半期における Fabrazyme[®](ファブラザイム)の売上高は、ファブリー病の新規治療患者が継続的に増加したことを反映し、15.4%増の1億7,700万ユーロとなりました。

第1四半期における Myozyme[®](マイオザイム)/Lumizyme[®]の売上高は、主にポンペ病の新規治療患者の増加と世界的な診断の増加を受けて、12.7%増の1億9,000万ユーロとなりました。

多発性硬化症製品群

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Aubagio [®]	371	+29.7%
Lemtrada [®]	125	+40.9%
多発性硬化症合計	496	+32.4%

第1四半期における多発性硬化症(MS)製品群の売上高は、米国および欧州での Aubagio[®]と Lemtrada[®]の好業績を反映し、32.4%増の4億9,600万ユーロとなりました。

第1四半期における Aubagio[®]の売上高は、米国(33.0%増の2億5,900万ユーロ)および欧州(23.0%増の9,100万ユーロ)に牽引され、29.7%増の3億7,100万ユーロとなりました。米国では、Aubagio[®]が9.0%の市場シェアを達成し(出典:IMS TRX-2017年度第1四半期)、現在、米国において最も既存治療から切り替わった疾患修飾薬となっています(出典:IMS NPA Market Dynamics)。

第1四半期における Lemtrada[®]の売上高は、米国(39.1%増の6,700万ユーロ)および欧州(31.4%増の4,500万ユーロ)を含め、40.9%増の1億2,500万ユーロとなりました。

オンコロジー製品群

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Jevtana [®] (ジェブタナ)	97	+5.6%
Thymoglobulin [®] (サイモグロブリン)	72	+7.7%
Taxotere [®] (タキソテール)	47	+2.2%
Eloxatin [®]	45	+7.1%
Mozobil [®] (モンビル)	40	+11.4%
Zaltrap [®] (ザルトラップ)	16	-5.9%
その他	95	+46.0%
オンコロジー合計	412	+12.8%

第1四半期におけるオンコロジー製品群の売上高は、Jevtana[®](ジェブタナ)によって牽引され、米国政府による Leukine[®]の発注に押し上げられて、12.8%増の4億1,200万ユーロとなりました。第1四半期における Jevtana[®](ジェブタナ)の売上高は、欧州(5.7%増の3,700万ユーロ)および日本に牽引され、5.6%増の9,700万ユーロとなりました。第1四半期における Thymoglobulin[®](サイモグロブリン)の売上高は、米国での業績(8.1%増の4,100万ユーロ)に後押しされ、7.7%増の7,200万ユーロとなりました。

第1四半期における Eloxatin[®]の売上高は、中国での業績(新興市場の売上高は27.6%増の3,700万ユーロ)によって、カナダでのジェネリック医薬品との競合の影響が相殺され、7.1%増の4,500万ユーロとなりました。第1四半期における Taxotere[®](タキソテール)の売上高は、新興市場(23.3%増の3,700万ユーロ)によって日本でのジェネリック薬品との継続的な競合の影響が相殺され、2.2%増の4,700万ユーロとなりました。

糖尿病製品群

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Lantus [®] (ランタス)	1,226	-14.1%
Toujeo [®] (ランタス XR)	192	+78.6%
グラルギン製品合計	1,418	-7.7%
Apidra [®] (アピドラ)	98	+14.1%
Amaryl [®] (アマリール)	89	+5.7%
Insuman [®]	27	-15.6%
BGM(血糖測定器)	17	-
Lyxumia [®] (リキスマア)	7	-22.2%
Soliqua [®]	4	-
糖尿病合計	1,663	-6.0%

第1四半期における糖尿病製品群の売上高は、米国での Lantus[®](ランタス)の売上高減少を含め6.0%減の16億6,300万ユーロとなりました。第1四半期における米国での糖尿病製品群の売上高は、14.7%減の8億3,900万ユーロでした。新興市場での売上高は、12.1%増の3億7,300万ユーロでした。欧州での売上高は、3.0%減の3億2,600万ユーロでした。

第1四半期におけるサノフィのグラルギン製品群(Lantus[®](ランタス)および Toujeo[®](ランタス XR))の売上高は、7.7%減の14億1,800万ユーロでした。米国におけるサノフィのグラルギン製品群の売上高は、各種の CVS フォーマルラーから除外されたことの影響を反映し、15.5%減の8億500万ユーロとなりました。CVS フォーマルラーからの除外による影響が徐々に拡大してきたことに加え、2017年4月1日からは United Health フォーマルラーからも除外されたことを受けて、米国における糖尿病製品群の売上高減少は、今年度の残り期間に加速するものと予測されます。欧州におけるサノフィのグラルギン製品群の売上高は、複数の欧州市場でグラルギンのバイオシミラー製剤が発売されたことを受け、3.1%減の2億4,500万ユーロとなりました。

期中における Lantus[®](ランタス)の売上高は、14.1%減の12億2,600万ユーロでした。米国では、フォーマルラーからの除外に加え、平均卸値の低下と患者の Toujeo[®](ランタス XR)への切り替えを反映し、Lantus[®](ランタス)の売上高が20.9%減の6億9,000万ユーロとなりました。第1四半期における欧州での Lantus[®](ランタス)の売上高は、バイオシミラー製剤との競合、患者の Toujeo[®](ランタス XR)への切り替えを受け14.8%減の1億9,900万ユーロとなりました。新興市場での売上高は、9.6%増の2億5,300万ユーロとなりました。

第1四半期における Toujeo[®](ランタス XR)の売上高は、78.6%増の1億9,200万ユーロであり、そのうち1億1,500万ユーロ(42.3%増)が米国、4,600万ユーロが欧州で計上されました。

第1四半期における Amaryl[®](アマリアル)の売上高は、5.7%増の8,900万ユーロであり、そのうち7,300万ユーロ(8.5%増)が新興市場で計上されました。

第1四半期における Apidra[®](アピドラ)の売上高は、米国(12.0%増の2,900万ユーロ)、欧州(12.9%増の3,500万ユーロ)、および新興市場(20.0%増の2,400万ユーロ)での2桁成長を反映し、14.1%増の9,800万ユーロとなりました。

2017年1月より、Soliqua[™] 100/33(インスリン グラルギン 100単位/mL・リキシセナチド 33 µg/mL 配合注射剤、リキシセナチドは Zealand Pharma 社からライセンスを取得)が米国で発売されています。第1四半期における Soliqua[™]の売上高は、400万ユーロでした。

循環器製品群

第1四半期における Praluent[®](プラルエント)(Regeneron 社と共同開発)の売上高は、3,400万ユーロであり、そのうち2,400万ユーロが米国、800万ユーロが欧州で計上されました。これは、米国で保険支払者の制約が大きく、欧州で市場アクセスが限られることを反映したものです。

2017年1月、米国デラウェア州地方裁判所は、米国で Praluent[®](プラルエント)のマーケティング、販売、製造を2017年2月21日より中止するようサノフィと Regeneron 社に命じる差し止め命令を発行しました。しかし、2017年2月8日、米国連邦巡回控訴裁判所は、不服申し立てを行っている間は差し止め命令を保留としました。その結果、サノフィと Regeneron 社は、不服申し立て手続きを行っている間、米国で Praluent[®](プラルエント)のマーケティング、販売、製造を継続します。控訴裁判所での口頭弁論は、2017年6月6日に開かれる予定です。

第1四半期における Multaq[®]の売上高は、米国での9.6%増(8,300万ユーロ)を反映し、10.5%増の9,800万ユーロとなりました。

エスタブリッシュ処方製品

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)
Lovenox [®]	415	+2.2%
Plavix [®] (プラビックス)	380	-1.8%
Renvela [®] /Renagel [®] (レナジェル)	246	+2.1%
Aprovel [®] /Avapro [®]	193	+13.0%
Synvisc [®] (サイビスク)/Synvisc-One [®]	90	-1.1%
Myslee [®] (マイスリー)/Ambien [®] /Stilnox [®]	73	-1.4%
Allegra [®] (アレグラ)	68	-13.3%
その他	1,175	-0.2%
エスタブリッシュ処方製品合計	2,640	+0.6%

第1四半期におけるエスタブリッシュ処方製品の売上高は、新興市場の好業績(8.2%増の10億600万ユーロ)によって、日本での Plavix[®](プラビックス)におけるジェネリック医薬品との競合の影響が相殺され、0.6%増の26億4,000万ユーロとなりました。米国でのエスタブリッシュ処方製品の売上高は、4.9%減の3億6,500万ユーロでした。欧州でのエスタブリッシュ処方製品の売上高は、2.1%減の9億700万ユーロでした。

第1四半期における Lovenox[®]の売上高は、新興市場の好業績(14.3%増の1億2,000万ユーロ)によって、欧州での売上高減少(1.5%減の2億5,700万ユーロ)が相殺され、2.2%増の4億1,500万ユーロとなりました。

第1四半期における Plavix[®](プラビックス)の売上高は、2015年6月に日本で生じたジェネリック医薬品との競合(日本での売上高は33.7%減の6,400万ユーロ)により、1.8%減の3億8,000万ユーロとなりました。新興市場における Plavix[®](プラビックス)の売上高は、中国での業績に支えられ、10.8%増の2億6,200万ユーロとなりました。

第1四半期における Renvela[®]/Renagel[®](レナジェル)の売上高は、2.1%増の2億4,600万ユーロでした。2017年度末までにジェネリック医薬品との競合が生じるとサノフィが予測した米国では、第1四半期における売上高は、3.1%増の2億700万ユーロとなりました。欧州での Renvela[®]/Renagel[®](レナジェル)の売上高は、ジェネリック医薬品との競合により、13.6%減の1,800万ユーロとなりました。

Aprovel®/Avapro®の売上高は、日本でのパートナーに対する製品売上高と中国での売上高に牽引され、13.0%増の1億9,300万ユーロとなりました。

コンシューマー・ヘルスケア

付録1に、地域別およびカテゴリー別のCHC売上高をまとめました。

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CER/CS*)
アレルギー薬/鎮咳去痰薬/感冒薬	414	+58.7%	+12.6%
– Allegra® (アレグラ)	145	-0.7%	-
– Mucosolvan®	35	na	na
鎮痛薬	324	+45.1%	+10.2%
– Doliprane®	83	+7.8%	-
– Buscopan®	42	na	na
消化器用薬	229	+55.6%	-8.3%
– Dulcolax®	47	na	na
– Enterogermina®	47	+9.5%	-
– Essentiale®	35	-17.9%	-
– Zantac®	27	na	na
栄養補助製品	164	+36.3%	-1.3%
– Pharmaton®	17	na	na
その他	210	+11.0%	+3.1%
– Gold Bond®	50	+2.1%	-
コンシューマー・ヘルスケア合計	1,341	+42.7%	+4.7%

*CS(constant structure):グループ構成の変動要因を排除

第1四半期におけるコンシューマー・ヘルスケア(CHC)製品の売上高は、2017年1月1日付でベリンガーインゲルハイム社のCHC事業買収が完了し、一部のサノフィ製品がサノフィとChina Resources Sanjiu(CR999)による新しい中国のジョイントベンチャーに移管されたことを反映し、42.7%増の13億4,100万ユーロとなりました。第1四半期におけるサノフィのCHC製品の売上高は、主に欧州の好業績に牽引され、CSベースで4.7%増となりました。

CHC製品の欧州での売上高は、68.2%増の4億600万ユーロでした。売上高は、咳・風邪シーズンの早期開始により、CSベースで10.0%増となりました。期中に、アレルギー薬/鎮咳去痰薬/感冒薬カテゴリー(Mucosolvan®、Bisolvon®、Allegra®(アレグラ))に牽引され、21.6%増と鎮痛薬カテゴリー(Buscopan®とDoliprane®)に牽引され、15.7%増がCSベースで2桁成長を達成しました。

第1四半期における米国でのCHC製品の売上高は、18.7%増の3億4,800万ユーロでした。CHC製品の売上高は、季節性および通年性アレルギーに伴う症状の軽減を適応とするOTC治療薬として2月に承認されたXyzal® Allergy 24HR(売上高は4,300万ユーロ)の発売に牽引され、CSベースで2.4%増となりました。CSベースで、第1四半期におけるアレルギー薬/鎮咳去痰薬/感冒薬(Xyzal®)の発売に牽引され、12.9%増と鎮痛薬カテゴリー(16.7%増)の業績によって、消化器用薬カテゴリーの減少(Dulcolax®とZantac®)の売上高減少の影響を受け、19.2%減が部分的に相殺されました。

第1四半期における新興市場でのCHC製品の売上高は、20.9%増の4億400万ユーロとなりました。CHC製品の売上高は、引き続き国内経済の影響を受けてロシアでの売上高が減少したことを反映し、CSベースで1.3%増となりました。新興市場では、CSベースで、Essentiale®による消化器用薬カテゴリーの売上高減少によって、アレルギー薬/鎮咳去痰薬/感冒薬カテゴリーの好業績(14.1%増)が部分的に相殺されました。

その他の国のCHC製品の売上高は、151.5%増の1億8,300万ユーロでした。CHC製品の売上高は、主に栄養補助製品カテゴリーおよび鎮痛薬カテゴリーによって牽引され、CSベースで4.9%増となりました。

ジェネリック医薬品

第1四半期におけるジェネリック医薬品の売上高は、欧州における売上高減少(3.4%減の1億9,800万ユーロ)と新興市場における2.8%増(2億ユーロ)を反映し、2.0%減の4億6,800万ユーロとなりました。

2020年に向けた戦略ロードマップで発表したとおり、サノフィは、欧州におけるジェネリック医薬品事業のすべての選択肢を慎重に見直し、2018年度末までに完了することを目指して事業を分離することを決定しました。重要な点として、サノフィは、他の地域では引き続きジェネリック医薬品事業に取り組み、新興市場においてはさらに注力していきます。

ワクチン

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CER/CS*)
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチン (Pentacel [®] 、Pentaxim [®] 、および Imovax [®] (イモバックス)を含む)	432	+46.2%	+38.0%
インフルエンザワクチン (Vaxigrip [®] と Fluzone [®] を含む)	38	+85.0%	+85.0%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン(Adacel [®] を含む)	79	-5.0%	-23.2%
髄膜炎・肺炎ワクチン (Menactra [®] (メナクトラ)を含む)	95	-24.6%	-24.6%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	106	+25.3%	+8.3%
Dengvaxia [®]	17	-5.3%	-5.3%
その他のワクチン	17	+23.1%	+14.3%
ワクチン合計(連結売上高)	784	+22.2%	+13.2%

*CS(constant structure): グループ構成の変動要因を排除

第1四半期におけるワクチンの連結売上高は、欧州におけるサノフィパスツール MSD ジョイントベンチャー (SPMSD JV) が2016年12月31日に終了したことを反映し、22.2%増の7億8,400万ユーロとなりました。売上高は、主にポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)から成る PPH 製品群に牽引され、CS ベースで 13.2%増となりました。米国での売上高は、13.5%増の2億8,700万ユーロでした。新興市場での売上高は、11.5%増の3億1,600万ユーロでした。欧州での売上高は、SPMSD JV の終了を反映し、110.4%増の1億ユーロとなりました。欧州での売上高は、CS ベースで 4.1%増でした。

第1四半期におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、46.2%増の4億3,200万ユーロでした。米国での Pentacel[®]の供給回復および米国疾病管理予防センター (CDC) の受注時期の調整(米国における Pentacel[®]の売上高は、前年同期の2,100万ユーロに対し、8,900万ユーロ)、および中国における Pentaxim[®]のバッチ出荷量の拡大を反映し、ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は CS ベースで 38.0%増となりました。

第1四半期におけるインフルエンザワクチンの売上高は、ブラジルのブタンタン研究所への供給に後押しされ、85.0%増の3,800万ユーロとなりました。

第1四半期における成人用ブースターワクチンの売上高は、欧州における Repevax[®]の供給停止の影響を受け、5.0%減(CS ベースで 23.2%減)の7,900万ユーロとなりました。

第1四半期における Dengvaxia[®]の売上高は、主に2016年初頭にフィリピンで実施された公的予防接種プログラムでの3回目接種分の売上高を反映し、1,700万ユーロとなりました。

第1四半期における Menactra[®](メナクトラ)の売上高は、主に前年度の米国 CDC による注文パターンにより、21.6%減の9,000万ユーロとなりました。

第1四半期におけるトラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチンの売上高は、25.3%増(CS ベースで 8.3%増)の1億600万ユーロとなりました。

地域別カンパニー売上高

純売上高 (単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期	前年同期比 (CER)	前年同期比 (CER/CS)
米国	2,764	+3.0%	+1.2%
新興市場 ^(a)	2,543	+11.3%	+8.5%
－中南米	676	+18.6%	+12.0%
－アジア(南アジア ^(b) を含む)	983	+13.4%	+12.4%
－アフリカおよび中東	546	+1.6%	-0.7%
－ユーラシア ^(c)	298	+14.3%	+9.9%
欧州 ^(d)	2,411	+10.4%	+1.8%
その他の国 ^(e)	930	+14.9%	+2.2%
－日本	529	+19.9%	-0.6%
サノフィ売上高合計	8,648	+8.6%	+3.5%

*CS(constant structure):グループ構成の変動要因を排除

(a) 米国、カナダ、西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコを除く各国

(b) インド、バングラデシュ、スリランカ

(c) ロシア、ウクライナ、ジョージア、ベラルーシ、アルメニア、およびトルコ

(d) 西欧・東欧諸国(ユーラシアを除く)

(e) 日本、韓国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、プエルトリコ

第1四半期における米国の売上高は、主に多発性硬化症製品群(34.2%増)、ワクチン(13.5%増)、オンコロジー(23.1%増)、希少疾患(12.2%増)、循環器(25.6%増)によって、糖尿病の売上高減少(14.7%減)が相殺されたことにより、3.0%増(CSベースで1.2%増)の27億6,400万ユーロとなりました。

第1四半期における新興市場の売上高は、エスタブリッシュ処方製品(CSベースで8.3%増)、糖尿病(12.1%増)、ワクチン(11.5%増)、オンコロジー(22.6%増)、希少疾患(11.1%増)に牽引され、11.3%増(CSベースで8.5%増)の25億4,300万ユーロとなりました。アジアの売上高は、医薬品の好業績と国内ワクチン市場の混乱の終了に牽引された中国での好業績(CSベースで17.0%増の5億9,700万ユーロ)を反映し、13.4%増(CSベースで12.4%増)の9億8,300万ユーロとなりました。第1四半期における中南米の売上高総計は、ブラジルに支えられ、18.6%増(CSベースで12.0%増)の6億7,600万ユーロとなりました。第1四半期におけるブラジルの売上高は、エスタブリッシュ処方製品、ワクチン、ジェネリック医薬品、およびCHCの業績に支えられ、CSベースで24.5%増の3億2,000万ユーロとなりました。第1四半期におけるユーラシア地域の売上高は、トルコ的大幅成長に支えられ、14.3%増(CSベースで9.9%増)の2億9,800万ユーロとなりました。期中におけるロシアの売上高は、国内経済の影響を受け、0.9%増(CSベースで4.3%減)の1億4,700万ユーロとなりました。アフリカおよび中東の売上高は、ワクチンの供給時期の調整による中東での売上高減少とアフリカでの控えめな成長を反映し、1.6%増(CSベースで0.7%減)の5億4,600万ユーロとなりました。

第1四半期における欧州での売上高は、主に多発性硬化症製品群(25.7%増)とCHC(CSベースで10.0%増)の業績によって、糖尿病(3.0%減)とエスタブリッシュ処方製品(CSベースで3.1%減)の売上高減少が相殺されたことに牽引され、10.4%増(CSベースで1.8%増)の24億1,100万ユーロとなりました。

第1四半期における日本の売上高は、19.9%増の5億2,900万ユーロとなりました。ワクチンの売上高の大幅成長によって、Plavix[®](プラビックス)におけるジェネリック医薬品との競合の影響が部分的に相殺されたことにより、日本の売上高はCSベースで0.6%減となりました。

研究開発の最新情報

サノフィの研究開発パイプラインの全容については、付録 6 を参照。

薬事関連の最新情報

2017 年 2 月 8 日の 2016 年度通年業績発表以降、以下の薬事関連の出来事がありました。

- 4 月、FDA は、**Praluent**[®](プラルエント) 300 mg を 1 カ月に 1 回(4 週間ごとに)皮下注射で投与する新用量を承認しました。
- 4 月、欧州医薬品庁(EMA)の医薬品委員会(CHMP)は、中等症から重症の活動性関節リウマチ成人患者を対象とする **Kezara**[®](一般名:sarilumab)の承認を勧告する肯定的見解を示しました。
- 3 月、米国食品医薬品局(FDA)は、局所治療でコントロール不良であるか、またはそれらの治療が推奨されない中等症から重症のアトピー性皮膚炎(AD)成人患者の治療薬として承認された最初で唯一の生物学的製剤となる **Dupixent**[®](一般名:dupilumab)を承認しました。
- FDA によるル・トレ工場の検査が順調に完了したことを受け、関節リウマチ治療薬として、**Kezara**[®](一般名:sarilumab)の米国 BLA が 4 月に受理されました。PDUFA に基づく審査期限は 2017 年 5 月 22 日です。

2017 年 4 月末時点の研究開発パイプラインは、臨床開発段階にある 46 の新規分子化合物(ライフサイクルマネジメントを除く)およびワクチンの候補から構成され、そのうち 13 は第 III 相あるいは規制当局に承認申請を行っている段階にあります。

ポートフォリオの最新情報

第 IV 相:

- **Praluent**[®]に関する ODYSSEY OUTCOMES 試験の重要結果は、独立データ安全性監視委員会(DSMB)からの通達に基づき、2018 年度第 1 四半期に報告される見通しです。18,600 人の患者を対象とするこの心血管アウトカム試験の登録は 2015 年 11 月に完了し、予定された 2 年間の患者フォローアップが進行中です。

第 III 相:

- シクロスポリン治療抵抗性の中等症から重症のアトピー性皮膚炎患者において **dupilumab** を評価する CAFÉ 試験の結果は肯定的であり、安全性プロファイルが許容範囲であることも確認されました。これらの結果は EMA に提出され、学会会議で発表される予定です。
- 3 月、1 年間の第 III 相 CHRONOS 試験の詳細な結果が米国皮膚科学会(AAD)の年次会議で発表されました。同試験では、中等症から重症のアトピー性皮膚炎の成人患者での **Dupixent**[®](一般名:dupilumab)とステロイド局所投与(TCS)の併用は、ステロイド局所投与する場合に比べ、全般的な疾患重症度の評価が有意に改善しました。

第 II 相:

- モノクローナル抗体 **SP0232 / MEDI8897**(MedImmune 社との提携)が RS ウイルスによる小児の下気道疾患の予防薬として、第 II 相のポートフォリオに入りました。
- メイタンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 **SAR566658** がトリプルネガティブ乳がんの治療薬として第 II 相に移行しました。
- 急性リンパ性白血病において **isatuximab** を評価する第 II 相試験が開始されました。

第 I 相:

- 拡張型心筋症の治療(DCM1 ミオシン活性化)を目的とする **SAR440181 / MYK491**(MyoKardia 社との共同開発)が第 I 相に入りました。

2017 年度第 1 四半期の業績⁽⁸⁾

事業純利益⁽⁸⁾

2017 年度第 1 四半期におけるサノフィの売上高は、11.1%増 (CER ベースで 8.6%増) の 86 億 4,800 万ユーロとなりました。

第 1 四半期におけるその他収益は、71.7%増 (CER ベースで 66.9%増) の 2 億 4,900 万ユーロとなりました。これには、VaxServe によるサノフィ製品以外の売上高 1 億 7,300 万ユーロ (前年同期は 8,300 万ユーロ) が含まれます。

第 1 四半期における売上総利益は、13.1%増 (CER ベースで 10.6%増) の 62 億ユーロとなりました。売上総利益は CER および CS ベース*で 5.4%増となりました。売上総利益率は、多発性硬化症事業の成長の好影響、エスタブリッシュ処方製品群および地理構成の優位性、生産性向上を反映し、前年同期と比較し 1.3 ポイント改善し 71.7%となりました。これらの影響は、米国での糖尿病卸値のマイナス変動を補って余りあるものでした。第 1 四半期の医薬品の売上総利益率は 1.6 ポイント改善し 73.1%となり、ワクチンの売上総利益率は 0.6 ポイント低下し 58.0%でした。サノフィは、2017 年度の売上総利益率が CER ベースで約 70%となるものと予想しています。

第 1 四半期における研究開発費は、6.0%増 (CER ベースで 4.0%増) の 13 億 900 万ユーロとなりました。研究開発費は、オンコロジー (isatuximab、PD-1) および sotagliflozin の開発プログラムへの支出増を反映して、CER および CS ベース*で 2.1%増となりました。

第 1 四半期における販売費および一般管理費 (SG&A) は、12.0%増 (CER ベースで 9.5%増) の 24 億 7,800 万ユーロでした。SG&A は、Dupixent[®]、Kevzara[™]、Xyzal[®] の発売コスト、主要新興国および欧州のワクチン事業での営業および販売投資、ベアリングインゲルハイム社 CHC 事業の統合前作業に関連する 1 回限りのコストを反映して、CER および CS ベース*で 1.5%増となりました。一方、米国での糖尿病営業販売費は、新たな競争環境に応じて調整されました。

第 1 四半期におけるその他の当期営業収益 (費用控除後) は、前年同期の 9,300 万ユーロの利益に対し、3,400 万ユーロの利益となりました。2016 年度第 1 四半期のこの項目には、仲裁裁定書に基づくサノフィへの 1 億 9,200 万ユーロの支払いと、ベネズエラに関連する 9,200 万ユーロの為替損が含まれていました。

第 1 四半期における関連会社持分利益は、前年同期の 2,300 万ユーロに対し、3,000 万ユーロとなりました。関連会社持分利益には、Regeneron 社の利益に占める当社の持分が含まれています。

第 1 四半期における非支配株主に帰属する純利益は、前年同期の 2,700 万ユーロの損失に対し、3,500 万ユーロの損失となりました。

第 1 四半期における事業営業利益は、15.0%増の 24 億 4,200 万ユーロとなりました。CER ベースで事業営業利益は 11.7%増でした。事業営業利益は CER および CS ベース*で 7.6%増でした。第 1 四半期の純売上高に占める事業営業利益の割合は、前年同期比で 0.9 ポイント増加し、28.2%となりました。第 1 四半期の医薬品の事業営業利益率は 1.4 ポイント増の 30.1%、ワクチンの事業営業利益率は 0.7 ポイント増の 13.5%となりました。

第 1 四半期における純財務費用は、負債コストの低下を反映し、前年同期の 1 億 1,700 万ユーロに対し、6,300 万ユーロでした。

第 1 四半期の実効税率は、前年同期の 22.6%に対し、24.5%でした。

第 1 四半期における事業純利益⁽⁸⁾は、4.2%増 (CER ベースで 1.0%増) の 17 億 9,500 万ユーロとなりました。第 1 四半期の純売上高に占める事業純利益の割合は、前年同期比で 0.9 ポイント増加し、20.8%となりました (動物用医薬品事業を除く)。

2017 年度第 1 四半期の 1 株当たり事業純利益⁽⁸⁾ (EPS) は、為替調整前では 6.0%増の 1.42 ユーロ、CER ベースで 3.0%増となりました。2017 年度第 1 四半期の期中平均発行済み株式数は、前年同期の 12 億 8,840 万株に対し、12 億 6,240 万株となりました。

(8) 2017 年度第 1 四半期の連結損益計算書については付録 3、財務指標の定義については付録 8、IFRS 純利益から事業純利益への調整については付録 4 をご参照ください。
* BI CHC 事業および SPMSD 終了に応じて調整

2017 年度通年の見通し

重大な予期せぬ要因が発生しない限り、以前に発表した 2016～17 年期の戦略ロードマップの見通しに沿って、2017 年度通年の 1 株当たり事業純利益は CER ベースで前年度並みから 3%減となるものと予測します。2017 年 3 月の平均レートを 2017 年度の残りの期間に適用すると、3%増～4%増の為替レート変動の影響が 2017 年度通年の 1 株当たり事業純利益に生じると予測されます。

IFRS 純利益から事業純利益への調整(付録 4 を参照)

2017 年度第 1 四半期の IFRS 純利益は、BI の CHC 事業の買収とサノフィの欧州ワクチン事業が全面的に連結対象になったことを反映して、57 億 100 万ユーロとなりました。事業純利益から除外される主な項目は、以下のとおりです。

- 動物用医薬品事業の売却に伴う 44 億 2,700 万ユーロの純売却益(手続き完了後に調整される)。
- 買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの 1 億 400 万ユーロ、ジェンザイムの 2 億 3,100 万ユーロ、BI CHC 事業の 6,600 万ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:3,700 万ユーロ)に関連した償却費の 5 億 300 万ユーロ。これらの項目によって、カンパニーにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- Lemtrada[®]に関連するバイエル社の偶発対価の公正価値の上昇(2,100 万ユーロの損失)および CVR に関連した偶発対価の公正価値の調整(1,600 万ユーロの損失)を反映した 3,600 万ユーロの損失。
- 在庫に対する BI CHC 事業買収および SPMSD ジョイントベンチャー終了の影響によって生じた 8,800 万ユーロの費用。
- 主に欧州および北米における生産レベルでの組織変革プログラムを反映した事業再編費用および類似項目、1 億 1,900 万ユーロ。
- 上記項目から生じた 2 億 4,800 万ユーロの税効果(無形固定資産に対する償却費から生じた繰延税金 1 億 8,200 万ユーロ、事業再編費用および類似項目に関連した 4,300 万ユーロ、在庫に対する買収の影響に関連した 2,800 万ユーロ、および偶発対価債務の公正価値での再評価に関連した 600 万ユーロから構成される)。
- ジョイントベンチャーの事業再編費用、関連会社とジョイントベンチャーに対する買収の影響から生じる費用に関連した 2,400 万ユーロの費用(税控除後)。

資本配分

3 億 8,200 万ユーロの資本支出と 7 億 6,600 万ユーロの運転資本の増加を考慮した 2017 年度第 1 四半期における営業活動からの純キャッシュは、9 億 5,400 万ユーロとなりました。この純キャッシュフローは、主に買収・提携(売却を控除)(2 億 2,200 万ユーロ)、事業再編費用および類似項目(2 億 1,100 万ユーロ)のための財源に充当しました。BI CHC 事業とサノフィの動物用医薬品事業の交換は、52 億 8,800 万ユーロ(売却益に対する納税は以降の四半期に予定されているため、税引前金額)の純キャッシュフローを生み出し、その一部を期中における株式の買い戻し(12 億 8,900 万ユーロ)のための財源に充当しました。その結果、純負債は、2016 年 12 月 31 日時点の 82 億 600 万ユーロから 2017 年 3 月 31 日時点の 36 億 8,500 万ユーロ(149 億 2,400 万ユーロの現金および現金等価物を控除)へと減少しました。

今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的な事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とサノフィが外部成長の機会から利益を得て、規制当局の認可を取得する可能性に付随する不確実性、知的財産権やそれに関連した進行中または係争中の訴訟、ならびにそのような訴訟の最終結果に関連するリスク、為替レートと実勢金利のトレンド、不安定な経済情勢、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2016 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。

付録

付録一覧

- 付録 1: 2017 年度第 1 四半期の GBU 別・製品群別・地域別・製品別純売上高
- 付録 2: 2017 年度第 1 四半期の損益計算書
- 付録 3: 2017 年度第 1 四半期の連結損益計算書
- 付録 4: IFRS 純利益から事業純利益への調整
- 付録 5: 為替感度
- 付録 6: 研究開発パイプライン
- 付録 7: 見込まれる研究開発マイルストーン
- 付録 8: GAAP (一般会計原則) と異なる財務指標の定義

付録1:2017年度第1四半期のGBU別・製品群別・地域別・製品別純売上高

2017年度第1四半期 (単位:100万ユーロ)	GBU 合計	前年度比 (CER)	前年度比 調整前	欧州	前年度比 (CER)	米国	前年度比 (CER)	その他	前年度比 (CER)	新興市場	前年度比 (CER)	製品群 合計	前年度比 (CER)	前年度比 調整前
Aubagio	363	30.1%	33.5%	91	23.0%	259	33.0%	13	30.0%	8	14.3%	371	29.7%	33.0%
Lemtrada	120	41.2%	41.2%	45	31.4%	67	39.1%	8	150.0%	5	33.3%	125	40.9%	42.0%
多発性硬化症合計	483	32.8%	35.3%	136	25.7%	326	34.2%	21	64.3%	13	20.0%	496	32.4%	35.1%
Cerezyme (セラゼイム)	126	-2.4%	0.0%	68	-2.8%	46	0.0%	12	-9.1%	50	-10.7%	176	-4.9%	-3.3%
Cerdelga (サデルガ)	31	30.4%	34.8%	5	66.7%	25	26.3%	1	0.0%	0	-	31	30.4%	34.8%
Myozyme (マイオザイム)	163	11.0%	11.6%	82	5.1%	67	18.2%	14	16.7%	27	25.0%	190	12.7%	14.5%
Fabrazyme (ファブラザイム)	158	12.3%	14.5%	40	8.1%	93	13.9%	25	13.6%	19	54.5%	177	15.4%	18.8%
Aldurazyme (アウドラザイム)	35	0.0%	0.0%	19	0.0%	11	0.0%	5	0.0%	17	30.8%	52	8.3%	8.3%
希少疾患合計	589	6.9%	9.5%	231	2.6%	274	12.2%	84	2.7%	123	11.1%	712	7.6%	10.2%
Taxotere (タキソテール)	10	-37.5%	-37.5%	1	0.0%	1	0.0%	8	-42.9%	37	23.3%	47	2.2%	2.2%
Jevtana (ジェブタナ)	89	4.8%	6.0%	37	5.7%	40	2.6%	12	9.1%	8	16.7%	97	5.6%	7.8%
Eloxatine	8	-38.5%	-38.5%	2	100.0%	0	-	6	-50.0%	37	27.6%	45	7.1%	7.1%
Thymoglobulin (サイモグロブリン)	57	7.8%	11.8%	10	11.1%	41	8.1%	6	0.0%	15	7.1%	72	7.7%	10.8%
Mozobil (モゾビル)	38	12.1%	15.2%	11	10.0%	25	14.3%	2	0.0%	2	0.0%	40	11.4%	14.3%
Zaltrap (ザルトラップ)	15	-6.3%	-6.3%	13	8.3%	2	-50.0%	0	-	1	0.0%	16	-5.9%	-5.9%
オンコロジー合計	307	9.9%	12.0%	88	8.6%	181	23.1%	38	-26.0%	105	22.6%	412	12.8%	15.1%
サノフィジェンザイム(スペシャルティケア)	1,379	15.5%	18.0%	455	9.8%	781	23.1%	143	-1.5%	241	16.3%	1,620	15.6%	18.2%
Lantus (ランタス)	973	-18.8%	-16.6%	199	-14.8%	690	-20.9%	84	-9.1%	253	9.6%	1,226	-14.1%	-12.1%
Toujeo (ランタス XR)	176	66.0%	70.9%	46	142.1%	115	42.3%	15	133.3%	16	-	192	78.6%	86.4%
Apidra (アピドラ)	74	12.3%	13.8%	35	12.9%	29	12.0%	10	11.1%	24	20.0%	98	14.1%	15.3%
Amaryl (アマリアル)	16	-5.9%	-5.9%	5	-37.5%	1	-100.0%	10	37.5%	73	8.5%	89	5.7%	1.1%
Insuman	21	-4.8%	0.0%	20	-4.8%	1	0.0%	0	0.0%	6	-36.4%	27	-15.6%	-15.6%
糖尿病合計	1,290	-10.3%	-8.1%	326	-3.0%	839	-14.7%	125	5.2%	373	12.1%	1,663	-6.0%	-4.1%
Multaq	96	10.7%	14.3%	11	0.0%	83	9.6%	2	-	2	0.0%	98	10.5%	14.0%
Praluent (プララエント)	33	166.7%	175.0%	8	200.0%	24	155.6%	1	-	1	-	34	175.0%	183.3%
循環器合計	129	30.2%	34.4%	19	42.9%	107	25.6%	3	-	3	50.0%	132	30.6%	34.7%
糖尿病および循環器	1,419	-7.7%	-5.3%	345	-1.1%	946	-11.5%	128	7.0%	376	12.3%	1,795	-4.0%	-2.0%
Plavix (プラビックス)	380	-1.8%	-2.1%	39	-7.1%	0	-100.0%	79	-27.9%	262	10.8%	380	-1.8%	-2.1%
Lovenox	415	2.2%	2.7%	257	-1.5%	15	-6.7%	23	-4.5%	120	14.3%	415	2.2%	2.7%
Renagel (レナジェル)/ Renvela	246	2.1%	5.1%	18	-13.6%	207	3.1%	9	0.0%	12	20.0%	246	2.1%	5.1%
Aprovel	193	13.0%	14.2%	31	-6.1%	3	-25.0%	45	61.5%	114	8.5%	193	13.0%	14.2%
Allegra (アレグラ)	68	-13.3%	-9.3%	2	50.0%	0	-	66	-15.1%	0	-	68	-13.3%	-9.3%
Myslee / Ambien / Stilnox (マイスリー)	73	-1.4%	4.3%	10	-9.1%	15	0.0%	29	-10.0%	19	21.4%	73	-1.4%	4.3%
Synvisc (サイビスク)/ Synvisc One	90	-1.1%	2.3%	8	0.0%	67	-4.5%	4	150.0%	11	-9.1%	90	-1.1%	2.3%
Depakine	112	9.8%	9.8%	40	2.5%	0	-	4	-25.0%	68	17.2%	112	9.8%	9.8%
Tritace	62	3.2%	0.0%	39	-2.5%	0	-	1	-	22	4.5%	62	3.2%	0.0%
Lasix (ラシックス)	35	2.9%	2.9%	18	-5.3%	0	-	2	-50.0%	15	23.1%	35	2.9%	2.9%
Targocid (タゴシッド)	37	0.0%	0.0%	19	-5.0%	0	-	1	-50.0%	17	13.3%	37	0.0%	0.0%
その他の処方薬	929	-1.6%	0.1%	426	-1.4%	58	-24.3%	99	3.3%	346	1.8%	929	-1.6%	0.1%
エスタブリッシュ処方薬合計	2,640	0.6%	1.9%	907	-2.1%	365	-4.9%	362	-6.3%	1,006	8.2%	2,640	0.6%	1.9%
ジェネリック医薬品	468	-2.0%	2.0%	198	-3.4%	37	-28.6%	33	26.9%	200	2.8%	468	-2.0%	2.0%
新興市場スペシャルティケア合計	241	16.3%	19.3%							241	16.3%			
新興市場糖尿病および循環器合計	376	12.3%	12.9%							376	12.3%			
ジェネラルメディシンおよび新興市場	3,725	2.2%	3.9%	1,105	-2.4%	402	-7.6%	395	-4.1%	1,823	9.5%			
アレルギー薬/鎮咳去痰薬/感冒薬	414	58.7%	63.0%	107	197.2%	154	12.9%	62	176.2%	91	36.9%	414	58.7%	63.0%
鎮痛薬	324	45.1%	50.7%	139	47.4%	44	16.7%	29	600.0%	112	27.5%	324	45.1%	50.7%
消化器用薬	229	55.6%	61.3%	85	59.3%	44	500.0%	12	450.0%	88	3.8%	229	55.6%	61.3%
栄養補助製品	164	36.3%	45.1%	33	17.9%	1	0.0%	63	65.7%	67	26.5%	164	36.3%	45.1%
コンシューマーヘルスケア	1,341	42.7%	48.2%	406	68.2%	348	18.7%	183	151.5%	404	20.9%	1,341	42.7%	48.2%
医薬品合計	7,864	7.4%	9.9%	2,311	8.1%	2,477	1.9%	849	13.1%	2,227	11.3%	7,864	7.4%	9.9%
ボリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)	432	46.2%	50.0%	57	147.8%	127	105.0%	44	64.0%	204	11.1%	432	46.2%	50.0%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン	79	-5.0%	-1.3%	17	21.4%	45	-15.7%	8	14.3%	9	0.0%	79	-5.0%	-1.3%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎	95	-24.6%	-22.1%	1	-	71	-30.3%	2	-33.3%	21	0.0%	95	-24.6%	-22.1%
インフルエンザワクチン	38	85.0%	90.0%	0	-100.0%	3	0.0%	10	100.0%	25	118.2%	38	85.0%	90.0%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	106	25.3%	27.7%	22	187.5%	29	16.7%	14	18.2%	41	0.0%	106	25.3%	27.7%
デング熱	17	-5.3%	-10.5%	0	-	0	-	0	-	17	-5.3%	17	-5.3%	-10.5%
ワクチン	784	22.2%	25.4%	100	110.4%	287	13.5%	81	38.2%	316	11.5%	784	22.2%	25.4%
カンパニー合計	8,648	8.6%	11.1%	2,411	10.4%	2,764	3.0%	930	14.9%	2,543	11.3%	8,648	8.6%	11.1%

付録2:2017年度第1四半期の損益計算書

2017年度 第1四半期 (単位:100万 ユーロ)	医薬品			ワクチン			その他		グループ合計		
	Q1 2017	Q1 2016	前年度比	Q1 2017	Q1 2016	前年度比	Q1 2017	Q1 2016	Q1 2017	Q1 2016	前年度比
純売上高	7,864	7,158	9.9%	784	625	25.4%			8,648	7,783	11.1%
その他収益	76	54	40.7%	173	91	90.1%			249	145	71.7%
売上原価	(2,195)	(2,097)	4.7%	(502)	(350)	43.4%			(2,697)	(2,447)	10.2%
純売上高に占める割合	(27.9%)	(29.3%)		(64.0%)	(56.0%)				(31.2%)	(31.4%)	
売上総利益	5,745	5,115	12.3%	455	366	24.3%			6,200	5,481	13.1%
純売上高に占める割合	73.1%	71.5%		58.0%	58.6%				71.7%	70.4%	
研究開発費	(1,170)	(1,108)	5.6%	(139)	(127)	9.4%			(1,309)	(1,235)	6.0%
純売上高に占める割合	(14.9%)	(15.5%)		(17.7%)	(20.3%)				(15.1%)	(15.9%)	
販売費および一般管理費	(2,271)	(2,046)	11.0%	(207)	(166)	24.7%			(2,478)	(2,212)	12.0%
純売上高に占める割合	(28.9%)	(28.6%)		(26.4%)	(26.6%)				(28.7%)	(28.4%)	
その他の当期営業損益	69	107		(3)	-		(32)	(14)	34	93	
関連会社*および合弁会社持分利益	30	16		-	7				30	23	
非支配株主に帰属する純利益	(35)	(27)		-	-				(35)	(27)	
事業営業利益	2,368	2,057	15.1%	106	80	32.5%	(32)	(14)	2,442	2,123	15.0%
純売上高に占める割合	30.1%	28.7%		13.5%	12.8%				28.2%	27.3%	
財務収益(費用)									(63)	(117)	
法人税									(584)	(455)	
法人税率**									24.5%	22.6%	
事業純利益 (動物用医薬品事業を除く)									1,795	1,551	15.7%
純売上高に占める割合									20.8%	19.9%	
事業純利益 (動物用医薬品事業)									-	171	
事業純利益									1,795	1,722	4.2%
1株当たり事業純利益 (単位:ユーロ)**									1.42	1.34	6.0%

* 税控除後

** 税引前事業利益、関連会社、非支配持分に基づいて算出(動物用医薬品事業を除く)

*** 2017年度第1四半期の12億6,240万株、前年同期の12億8,840万株という期中平均発行済み株式数に基づく

付録3:2017年度第1四半期の連結損益計算書

(単位:100万ユーロ)	2017年度 第1四半期 (1)	2016年度 第1四半期 (1)
純売上高	8,648	7,783
その他収益	249	145
売上原価	(2,785)	(2,447)
売上総利益	6,112	5,481
研究開発費	(1,309)	(1,235)
販売費および一般管理費	(2,478)	(2,212)
その他の当期営業収益	60	217
その他の当期営業費用	(26)	(124)
無形固定資産の償却	(503)	(444)
無形固定資産の減損	-	-
偶発対価債務の公正価値での再評価	(36)	(29)
事業再編費用および類似項目	(119)	(500)
その他の損益および訴訟費用	-	-
営業利益	1,701	1,154
財務費用	(111)	(129)
財務収益	48	12
関連会社および合弁会社持分利益を除く税引前利益	1,638	1,037
法人税	(336)	(117)
関連会社および合弁会社持分利益	6	93
交換するために保留している動物用医薬品事業を除く純利益	1,308	1,013
交換するために保留している動物用医薬品事業による純利益	4,427	100
純利益	5,735	1,113
非支配株主に帰属する純利益	34	26
当社株主に帰属する純利益	5,701	1,087
期中平均発行済み株式数(単位:100万株)	1,262.4	1,288.4
交換するために保留している動物用医薬品事業を除く1株当たり純利益(単位:ユーロ)	1.01	0.77
IFRS 1株当たり純利益(単位:ユーロ)	4.52	0.84

(1) 動物用医薬品事業の2016年度の業績および2017年度の売却益は、IFRS第5号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)に従い、別途報告される

付録 4:IFRS 純利益から事業純利益への調整

(単位:100 万ユーロ)	2017 年度 第 1 四半期	2016 年度 第 1 四半期	前年度比
当社株主に帰属する純利益	5,701	1,087	424.5%
無形固定資産の償却 ⁽¹⁾	503	444	
無形固定資産の減損	-	-	
偶発対価債務の公正価値での再評価	36	29	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	88	-	
事業再編費用および類似項目	119	500	
その他の損益および訴訟費用	-	-	
上記項目の税効果:	(248)	(338)	
無形固定資産の償却	(182)	(156)	
無形固定資産の減損	-	-	
偶発対価債務の公正価値での再評価	(6)	(11)	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	(28)	-	
事業再編費用および類似項目	(43)	(171)	
その他の税効果	11	-	
その他の税目	-	-	
上記項目中、非支配株主に帰属する利益	(1)	(1)	
関連会社と合弁会社の事業再編費用、関連会社と合弁会社に対する買収の影響から生じる費用	24	(70)	
動物用医薬品項目 ^{(2)/(3)}	(4,427)	71	
事業純利益	1,795	1,722	4.2%
IFRS 1 株当たり利益⁽⁴⁾(単位:ユーロ)	4.52	0.84	

- (1) 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2017 年度第 1 四半期は 4 億 6,600 万ユーロ、前年同期は 4 億 1,000 万ユーロとなった
- (2) 2017 年度に動物用医薬品事業の売却に伴って生じる純利益(暫定クロージングステートメントに基づく)
- (3) 2016 年度には、以下の項目が含まれる:IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)の適用開始に伴う有形固定資産の減価償却および減損の中止の影響、IFRS 第 5 号の適用までの無形固定資産の償却および減損の影響、売却の結果として生じる費用、それらの項目の税効果
- (4) 2017 年度第 1 四半期の 12 億 6,240 万株、前年同期の 12 億 8,840 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

付録 5: 為替感度

2017 年の 1 株当たり事業純利益の為替感度

通貨	変動	1 株当たり事業純利益の 為替感度
米ドル	-0.05ドル/ユーロ	+0.13 ユーロ
日本円	+5 円/ユーロ	-0.02 ユーロ
中国元	+0.2 元/ユーロ	-0.02 ユーロ
ブラジル・リアル	+0.4 レアル/ユーロ	-0.02 ユーロ
ロシア・ルーブル	+10 ルーブル/ユーロ	-0.03 ユーロ

2017 年度第 1 四半期売上高の通貨変動リスク

通貨	2017 年度 第 1 四半期
米ドル	32.9%
ユーロ	24.5%
中国元	6.2%
日本円	5.6%
ブラジル・リアル	3.5%
英ポンド	1.9%
ロシア・ルーブル	1.7%
オーストラリア・ドル	1.6%
カナダ・ドル	1.5%
メキシコ・ペソ	1.1%
その他	19.5%

平均為替レート

	2016 年度 第 1 四半期	2017 年度 第 1 四半期	前年度比
ユーロ/ドル	1.10	1.06	-3.3%
ユーロ/円	127.02	121.12	-4.6%
ユーロ/元	7.21	7.32	+1.5%
ユーロ/リアル	4.31	3.35	-22.3%
ユーロ/ルーブル	82.47	62.53	-24.2%

付録 6: 研究開発パイプライン

N: 新規分子化合物

R: 登録試験

申請中

N	sarilumab 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ、米国、EU	Dengvaxia^{®(1)} 中等症から重症の デング熱に対するワクチン
N	Dupixent[®] 抗 IL4R α モノクローナル抗体 アトピー性皮膚炎、EU	PR5i DTP-HepB-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ) 小児用 6 種混合ワクチン、米国
N	SAR342434 インスリン リスプロ 1 型・2 型糖尿病	VaxiGrip[®] QIV IM⁽²⁾ 4 価不活化 筋注 インフルエンザワクチン (3 歳以上)

第 III 相

	dupilumab 抗 IL4R α モノクローナル抗体 喘息、鼻ポリープ	クロストリジウム・ディフィシル トキシノイドワクチン
N	isatuximab 抗 CD38 モノクローナル抗体 再発性・難治性多発性骨髄腫	VaxiGrip[®] QIV IM 4 価不活化 筋注 インフルエンザワクチン (6~35 カ月齢)
N	patisiran (ALN-TTR02) TTR 標的 siRNA 阻害剤 家族性アミロイドポリニューロパチー	小児用 5 種混合ワクチン DTP-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、ポリオ、ヒブ) 日本
N	GZ402666 neo GAA ポンペ病	Men Quad TT 第 2 世代の髄膜炎菌 ACYW 結合型ワクチン
N	sotagliflozin 経口 SGLT-1 および 2 阻害剤 1 型・2 型糖尿病	

(1) 現在までに 16 カ国で承認

(2) 2017 年 3 月末現在、28 カ国で承認

第II相

	dupilumab 抗 IL4R α モノクローナル抗体 好酸球性食道炎	N - R	olipudase alfa rhASM 欠損 酸性スフィンゴミエリナーゼ欠乏症 ⁽¹⁾		狂犬病 VRVg 精製ペロ細胞狂犬病ワクチン
N	SAR156597 IL4/IL13 両リガンド特異的モノクローナル抗体 特発性肺線維症/全身性強皮症	N	GZ402671 経口グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ゴーシェ病に關係するパーキンソン病、 ゴーシェ病 III 型、ファブリー病		結核 遺伝子組換えサブユニットワクチン
N	GZ389988 TRKA 拮抗剤 変形性関節症	N	fitusiran (ALN-AT3) アンチトロンビン標的 siRNA 阻害剤 血友病		Fluzone[®] QIV HD 4 価不活化 インフルエンザワクチン—高用量
	sarilumab 抗 IL6R モノクローナル抗体 ブドウ膜炎	N	efpeglenatide 長時間作用型 GLP-1 受容体作動薬 2 型糖尿病		Adacel+ Tdap 追加接種ワクチン
N	SAR422459 ABCA4 遺伝子療法 シユタルガルト病	N	SAR425899 GLP-1R/GCGR デュアル作動薬 2 型糖尿病		Shan 6 DTP-HepB-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ) 小児用 6 種混合ワクチン
N - R	SAR439684 PD-1 阻害剤 進行性 CSCC (皮膚がん)	N	SAR100842 LPA1 受容体拮抗剤 全身性強皮症		HIV ウイルスベクタープライムおよび rgp120 追加接種ワクチン
	isatuximab 抗 CD38 モノクローナル抗体 急性リンパ性白血病	N	SAR439152 ミオシン阻害剤 肥大型心筋症		SP0232⁽²⁾ モノクローナル抗体 RS ウイルス
N	SAR566658 メイトンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 固形がん	N - R	併用療法 ferroquine / OZ439 抗マラリア薬		

- (1) ニーマンピック病 B 型とも呼ばれる
(2) MEDI8897 とも呼ばれる

第I相

N	SAR440340 抗 IL33 モノクローナル抗体 喘息、慢性閉塞性肺疾患	N	SAR408701 メイトンシン搭載抗 CEACAM5 モノクローナル抗体 固形がん	N	SAR247799 S1P1 作動薬 循環器適応
N	SAR439794 TLR4 作動薬 ピーナツアレルギー	N	SAR428926 メイトンシン搭載抗 Lamp1 モノクローナル抗体 がん	N	SAR407899 rho キナーゼ 微小血管性狭心症
N	GZ402668 GLD52 (抗 CD52 モノクローナル抗体) 再発性多発性硬化症	N	SAR438335 GLP-1R/GIPR デュアル作動薬 2 型糖尿病		単純ヘルペスウイルス 2 型 HSV-2 ワクチン
N	UshStat[®] ミオシン 7A 遺伝子療法 アッシャー症候群 1B	N	SAR341402 即効型インスリン 糖尿病		ジカ熱 不活化ジカ熱ワクチン
N	SAR228810 抗プロトフィブリル AB モノクローナル抗体 アルツハイマー病	N	SAR440181⁽¹⁾ DCM1 ミオシン活性化 拡張型心筋症		RS ウイルス 乳幼児

- (1) MYK491 とも呼ばれる

付録 7: 見込まれる研究開発マイルストーン

製品	見込まれるマイルストーン	時期
dupilumab	喘息(6~11歳)における第III相試験の開始	2017年度 第2四半期
Kevzara ^{®(1)}	関節リウマチに関する米国の規制当局の決定	2017年度 第2四半期
Kevzara ^{®(1)}	関節リウマチに関する欧州委員会の決定	2017年度 第2四半期
Dupixent ^{®(1)}	アトピー性皮膚炎(6~11歳)における第III相試験の開始	2017年度 第3四半期
Fitusiran	血友病における第III相試験の開始	2017年度 第3四半期
Fluzone QIV HD	第III相試験の開始	2017年度 第3四半期
VaxiGrip [®] QIV IM (6~35カ月齢)	EUでの薬事承認申請	2017年度 第3四半期
dupilumab	喘息(成人患者)における第III相試験の結果	2017年度 第4四半期
dupilumab	喘息(成人患者)に関する米国での薬事承認申請	2017年度 第4四半期
patisiran	家族性アミロイドポリニューロパチーにおける第III相試験の結果	2017年度 第4四半期
efpeglenatide	2型糖尿病における第III相試験の開始	2017年度 第4四半期
sotagliflozine	2型糖尿病の併用療法における第III相試験の開始	2017年度
isatuximab	多発性骨髄腫および追加適応における第III相追加試験の開始	2017年度
SAR439684 (PD-1)	NSCLC ⁽²⁾ およびBCC ⁽³⁾ における第II相/第III相試験の開始	2017年度
Praluent [®]	ODYSSEY OUTCOMES試験の重要結果	2018年度 第1四半期

(1) 承認を条件として受理された名称

(2) 非小細胞肺癌 (Non-Small Cell Lung Cancer)

(3) 基底細胞がん (Basal Cell Carcinoma)

付録 8: GAAP(一般会計原則)と異なる財務指標の定義

カンパニー

「カンパニー」は、サノフィとその子会社に相当します。

カンパニー売上高(為替レート変動の影響を除く)

「純売上高(為替レート変動の影響を除く)」での変化に言及する場合は、為替レート変動の影響が排除されていることを意味します。

為替レートの影響は、前期に使用された為替レートで当期の売上高を再計算することによって、排除されます。

2017 年度第 1 四半期の純売上高からカンパニー売上高(為替レート変動の影響を除く)への調整

(単位:100 万ユーロ)	2017 年度 第 1 四半期
純売上高	8,648
為替レートの影響	(194)
カンパニー売上高(為替レート変動の影響を除く)	8,454

事業純利益

サノフィは、GAAP(一般会計原則)と異なる主要指標を発表します。

事業純利益は、当社株主に帰属する純利益から以下の項目を除外したものと定義されます。

- 無形固定資産の償却
- 無形固定資産の減損
- 合併または売却に関連する偶発対価の公正価値での再評価
- 買収に関連するその他の影響(関連会社および合弁会社に対する買収の影響など)
- 事業再編費用および類似項目⁽¹⁾
- その他の損益(非流動資産の売却損益⁽¹⁾を含む)
- 訴訟に関わる費用または引当金⁽¹⁾
- 上記の各項目に対する税効果と主要な税務訴訟の影響
- 当社株主に支払った配当に対する課税(3%)
- 事業純利益のうちの動物用医薬品項目⁽²⁾
- 上記項目に関連する非支配株主に帰属する純利益

(1) 連結損益計算書の Note B.20.で定義されているとおり、**再編費用および類似項目**と**売却・訴訟に関わる損益**の勘定科目で報告されます。

(2) 2016 年度における IFRS 第 5 号(売却するために保留している固定資産および廃止事業)の適用開始に伴う有形固定資産の減価償却および減損中止の影響、IFRS 第 5 号の適用までの無形固定資産の償却および減損の影響、売却の結果として増加する費用、これらの項目の税効果、ならびに、2017 年度における動物用医薬品事業の売却益(税控除後)